

令和元年度

事業所名： グループホーム たんたん

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100941		
法人名	社団医療法人 三和会		
事業所名	グループホーム たんたん		
所在地	〒020-0502 岩手県岩手郡雫石町板橋3-7		
自己評価作成日	令和1年7月日	評価結果市町村受理日	令和1年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様との信頼関係を築くことでそのご家族とも良い関係が保たれ、日々の業務がスムーズに行えている。同一敷地内にある老人保健施設との医療連携も充実しており、安心して日々の生活を楽しくいただいている。個別ケアを重要と捉え、日常生活でも個々に合わせた生活を送っていただき、誕生日には希望を聞き取り、買い物や食事などの外出支援を行っている。飼い猫の「マイケル」は利用者様からも生活を共にすることで家族の一員として受け入れられ、ご家族が来所する際にはご飯の差し入れをいただくこともあり今や無くてはならない存在となっている。また、町内にも猫がいる施設として浸透し、「元気ですか」などと声を掛けて下さる方もいらっしゃる。今後も家庭的な雰囲気大切に、いい関係づくりができるよう支援を行っていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内はゆったりとした雰囲気が感じられる。職員は、運営方針で定める利用者の立場に立った支援を目指し、利用者が必要とするサービスは何かを考えながら行動するなど、理念の実践に努めている。同一法人が運営する介護老人保健施設との連携により、災害時の対応、重度化した場合の対応など、利用者のご家族に安心感を与えている。職員間の連携、コミュニケーションが図られており、利用者の思いに配慮した対応に努め、ご家族の協力により、外出や地域との交流の機会も多く、利用者が安心していきいきと生活している。飼い猫の「マイケル」と一緒に生活することが癒しとなっており、利用者、職員、近隣住民の良好な関係づくりに役立っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年8月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者を中心とした考えの理念を掲げ、職員全員が同じ方向でその理念に沿った介護を心掛けるよう努力している。	法人の基本理念に基づく事業所の運営方針を定め、職員間で目の付くところに掲示し共有するよう努めている。利用者の思いを大事にし、日常の業務の中で利用者が必要とするサービスは何かを考えながら行動するなど理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の季節の行事には利用者と一緒に参加したり、近隣にある学校のマラソン大会のコースで地域の方の庭先をお借りして独自の応援グッズを作り、みんなで応援する機会があった。法人で開催する夏祭りには近隣住民にも参加していただき、交流の機会を設けている。	地域の行事には、利用者の体調等を考慮し数名単位で参加している。法人合同の夏祭りには、子ども達や地区の方々、利用者も参加し交流している。小学校や保育園児の訪問は、隣接の老健施設と共同で行っている。地元中学生がボランティアで訪問してくれるなど、地域の人達と交流する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの講師や認知症サポーターとして町内の小学校で認知症講座に参加した。また、今年の秋には法人主催で介護教室を開催する予定となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状態報告や活動状況を報告している。また、昨年から実施しているシルバーリハビリ体操を今年度も委員の協力を得ながら継続している。	奇数月の月末水曜日開催を基本としているが、多くの委員が集まれるようその都度日程を調整している。会議では、利用者の状況や事業報告を行い、終了後、利用者と一緒に食事をし、日常生活を感じてもらえるようにしている。会議には、所長の他、主任介護福祉士がメンバーとして参加している。	会議の内容は回覧という形で職員間で確認、共有しているが、一部職員だけでなく、全職員が交互に会議に参加する機会をつくり、委員の方々と直接話し合いをする場をつくるなどの取り組みを進めるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等の提出は直接窓口へ提出し、利用者の状況報告や相談などを行うことがある。行政が開催する町内の福祉、医療関係者が参加する他職種合同会議にも参加し情報交換をしている。	町担当課職員が運営推進会議のメンバーとなっており、地域の高齢者の情報把握や利用者に関することを相談したり、聞いたりしやすい関係にある。町が主催する他職種合同会議に職員も参加し情報交換をするなど、関係者との連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で委員会を設置し、勉強会を行う等、全職員が身体拘束廃止に対しての知識を理解している。玄関にベルを取り付けて出入りがわかるように工夫している。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	玄関は自動開閉であるが、無断外出が起きないよう手動にしている。法人として「身体を拘束しないケア」の委員会を設置し、虐待防止に関する研修会を開催している。研修は、全職員が参加できるよう複数回行い、身体拘束に関する対応等の理解に努め、注意し合っている。家族からの要望を受け、その了解のもとでセンサーマットを使用している利用者が1名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修に参加したり、あざなどを確認した場合には報告書や介護記録に記載するようにしている。また、家族にも報告するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加は無く、現在成年後見制度を活用する利用者はいないが、今後十分考えられることから、学ぶ機会を検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に文書と合わせ、口頭で説明を行い、納得していただいたうえで、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の通信を3か月毎に送付し、活動状況を理解していただいている。また、今年度より年2回の予定でご家族との懇談会を行う予定としており、第1回目として6月に開催し、ご家族よりたくさんのご意見を伺うことができた。	利用者の生活の様子を事業所通信で家族に伝えている。今年度から、年2回家族との懇談会を行い、細やかな情報交換を行うこととしている。第1回目は6家族が参加し、居室内の環境整備や衣類交換を一緒に行い、家族・利用者、職員との触れ合いの機会になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの際に業務改善会議も併せて行い、職員が意見や提案をできる機会を設け業務がスムーズに行えるよう見直しを行っている。また会議で決定したことは記録として残し、全職員が確認できるようにしている。	申し送り簿に利用者の状況説明だけでなく、職員が気がついたことを細かく記載しており、業務改善に役立つ内容もある。職員話し合いのもとに「記録簿兼連絡簿」を作成し、事業所の運営に関する事項について、職員間で共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者もしくはその他職員は、代表者へ日誌提出、各報告、相談をする機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験をふまえ、研修等に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種が参加する研修会やグループホーム協会で主催する各種研修会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は介護記録に詳細に記録し、全職員が情報共有を行っている。在宅生活では着衣失効が著明な利用者で自分でもどうしたらいいのかわからないと話される利用者がいたが、情報を得ていたため、その部分だけの支援を強化することにより、安心した表情が見られている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族状況を職員が把握し、状況をきちんと伝えることを行っている。独居の在宅生活だった方が主治医より、施設入所を進められ冬季間だけの入所をご家族は考えていたが、入居後すぐにずっとお願いしたいとの要望があった利用者がいた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用に対応した利用者はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の清掃や食器拭きなどの家事は職員が声を掛けなくても利用者自ら進んで行ってくれている。また、在宅生活を送っていた際には周りの方からどのような名前と呼ばれていたかを本人、ご家族からお聞きして了解を得て普段から親しまれている名前と呼んでいる利用者もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は基本にご家族に同行して頂くことにしている。入居してからも利用者とは接する機会を持っていただくため、そのような機会を通してご本人も交えて、会話をする機会を得るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会がある方にはゆっくと会話ができるような空間づくりを行っている。また、併設の老健に行事等で出向くこともあり町内の方も多いため、その際には会話を楽しまれる方もいる。ご家族の協力で自宅に外出し、知り合いと交流する場を持つ利用者もいる。	隣接の老健施設に行事等で出向くこともあり、入所している知人と交流し楽しまれる方もいる。ご家族の協力を得て、自宅に出掛け知り合いと交流する場を持ってもらうなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルはある。必ず職員が間に入ることで、関係が悪化しないよう気配りすることを心がけている。その際にも職員が情報を共有し、トラブルを防ぐように対策を考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健に入所する利用者が多く、本人やご家族とも顔を合わせる機会がある。その際には状態を聞いたりすることがある。また、行事等で顔を合わせることがあり、様子はいつでも把握できるようになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き取ることが難しいことも多いが、コミュニケーションをとることで引き出すように努めている。またご家族にも聞き取りをしてそれを職員全員が把握し変化を見逃さないよう申し送り報告するようにしている。	業務日誌や個別介護記録で利用者の言葉や行動を記録し、家族からの情報も得ながら利用者の意向把握に努め、一人ひとりに寄り添いながら利用者の気持ちに沿った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職歴、生活歴等を情報として聞き取り個別ケアを検討している。今まで本人が行ってきた得意なことなどをホーム内でも行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のニーズに沿いながらも規則正しい生活が送れるように促しを行っている。バイタル、食分量、水分量、睡眠時間、排泄等を職員が確実に把握するように申し送りを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聴き取り、計画作成者以外の職員にも意見を出してもらい、サービス計画に反映するようにしている。	ケアプランは、家族の希望を聴取し、所長と主任介護福祉士による「サービス担当者会議」で作成している。職員との打合せで意見も聞き、調整、見直しをし、プラン内容は職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にケアプラン実施状況を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には現金は持ち込まないようにしていただいているが、生活保護の受給者で入所されている方に対して日常的に必要な物品などお金をお預かりし職員が買い物をしてその領収書を保管している。また、自宅に外泊した利用者が家族に内緒で現金を持ってきてしまう事もあり、その際にはご家族にその都度金額等を報告することもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員を地区の民生委員や近隣代表の2名に委嘱し、情報等の共有を随時行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者ごとにご家族が決めている。定期受診時は特変がある場合には情報提供書を作成したり、直接連絡して状態を報告して指示を受けている。	かかりつけ医の受診には家族が付添って行っている。受診時は、状況に応じて健康状態の情報を家族に託し、主治医からの指示があれば、家族から連絡を受けている。今後、普段の健康状態が分かるメモやバイタル表の提供の必要性について、家族懇談会等で意見を伺うことにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健と医療連携の体制があるため、月に1、2回のカンファレンスを行っている。また、体調が優れない利用者がある際は施設の医師に診察をしてもらい指示を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族に状態の確認を行うため、電話で連絡をしたり、詳細が分からない時には直接病院に連絡して状態確認を行っている。退院後も情報提供書を作成して状態報告をし指示を受けることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の書類を作成し説明をしてサインをいただいている。基本的には看取りは行わず、併設の老健や医療機関、他施設への移動等ご家族と相談する支援を行っている。	事業所としては、職員体制などの面から看取り介護は行っていない。入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」により、重度化や終末期の対応について説明し、隣接の老健施設を含めた他施設等への住み替えを支援することを説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を併設の老健と実施、協力体制の確認を行っている。また、大雨で避難準備情報が出され日中から夜間にかけて老健に避難をした。地域住民の協力体制は整っていないが、災害時の避難場所として近隣住民との連携を行うため地域の方達との会議に参加する予定。	火災避難訓練は、隣接する老健施設等と合同で、消防署員立ち合いのもとで年2回実施している。夜間想定訓練も行っている。グループホーム独自の災害対応マニュアルを作成中であり、単独での訓練実施も視野に入れている。簡易トイレや非常食等は法人で備蓄している。	グループホーム独自の災害対応マニュアルを早期に作成し、独自の訓練を実施し、結果を職員間で共有することが望まれます。運営推進会議委員の参加、支援についても、工夫しながら取組を進めることを期待します。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にするという理念をもとにおいて対応している。利用者の排泄の介助においては羞恥心の配慮についてはサービス計画書に取り入れている。	トイレのドアは、通常開放しているが、のれんを下げ中が余り見えないようにしている。理念に掲げる尊厳を大切に、職員が状況に応じた対応を心掛け、入浴、トイレ介助の際のプライバシーにも配慮している。	
----	------	--	--	---	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事などご本人が自主的に行うことは不十分でも見守りで行っていただいたり、裏庭の状態を見て、草が伸びている事を気につけ、草取りをしていただいたり自分の得意分野を活かした生活ができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日すべての利用者に対して職員側の決まりなしでの介護は対応しきれない場合もある。1日でもあるいは一時でも利用者本位の時間の過ごし方ができるよう処遇にあたる心掛けが大事だと考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅生活の延長と考え、自宅で好んで着用していた洋服を持参していただき、日常的に着ている利用者もいる。また、施設の夏祭り際には浴衣を着て参加していただき本人はもとより、ご家族も喜ばれた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意なこと、できる事を考慮した役割がある。食器拭き、テーブル拭きなど自主的に行っていただいている。食事の時間には昔の食事の事など話題にしたり、自ら思い出話を語ってくれる利用者もいる。職員が個々の好みを把握して献立に取り入れている。	食事は職員が調理し、利用者は、食事の後片付けなど、できる範囲で参加している。職員も同じメニューで食事(検食)し、利用者の好みを把握するなどしている。誕生会は、該当利用者が外食で希望するものを食べている。敬老会などは法人施設合同で行い、皆で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	むせ込みのある利用者にはご家族にも説明しとろみを使用したり、嚥下状態が悪い方には刻みやお粥で対応している。お茶をあまり摂取しづらい利用者にはご家族に協力していただき、好きな飲み物を差し入れてもらっている。また必要な利用者には食事量や水分量を記録として残すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じて、介助を要する利用者や、自力で出来るが不十分な利用者には毎食後支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合ったトイレ誘導を行い、毎回汚染がある利用者に対しても必ずトイレ誘導をしている。トイレ誘導することによって失敗する回数が減ってきて安心して下さるご家族もいらっしゃる。ご本人自身も表情が良くなる方もいる。	排泄チェック表により、職員が利用者のパターンを個別に把握し、一人一人に合わせて声掛けしてトイレに誘導するなど、利用者の状況に応じた対応をしている。トイレ誘導により、現状を維持し生活の質を向上できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の日課として体操や歩行運動がある。昼食時には牛乳をメニューに加え、水分補給は便秘予防以外にも重要と考え、摂取量に気を付けている。お茶を好まない利用者には好みのものを持参していただいている。また、ご家族が馴染みの薬局で便秘の薬を購入して届けて下さり、継続して内服している利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が曜日、時間帯を提案しているが排泄失敗時にはシャワー浴を行うこともある。着替えの準備をできる利用者には準備していただき、不足の物があつた際には職員が介助をしている。	入浴は、月から土曜日の間の週2回、月・木、火・金、水・土の3パターンから、利用者に合わせ運動等を終えた午後に行い、シャワー浴や清拭も必要に応じて行っている。入浴は職員が必ず付き添い、身体洗浄等、介助入浴をしている。女性の入浴介助も同意を得て男性職員が行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしていただく一方、昼食後に休息も必要と考え午睡の時間も設けている。また午前中でも居眠りをして姿勢が悪くなる利用者もあり、その際には短時間横になつてもらふことで姿勢の修正ができることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤処方時は必ず説明書に目を通し変更等があつた場合には確実に申し送りができるよう記録等に残すようにしている。また、不明な点は直接病院や薬局に電話をして聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの趣味でもある編み物を入居時よりずっと継続している方、歌番組や時代劇が好きな利用者には余暇の時間に見て頂いたり、それぞれ個々の好きな趣味を自由にやっていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生月に本人の希望を聴き、外食や買い物をしたり、温泉に行つたりすることを一昨年より継続している。また、自宅の庭の草取りをしに外出をしていただき、本人が昔から好んでやっていた作業を続けてできるようご家族にも協力していただいている。	普段は、天候や温度を考慮しながら事業所周辺を散歩している。利用者は、誕生月に本人の希望で外食や買い物に出掛けている。ドライブ等の利用者全員での外出は回数が限られるので、ご家族の協力をいただいて外出の機会を増やすよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は持ち込まないこととしている。利用者自身もここではお金は必要ないと判断している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は利用者から希望があれば自由に使用できる。携帯電話を持ち込んでいる利用者もあり、自分でかける事ができない時にはお手伝いすることがある。手紙が届いたときにはすぐに本人に手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が中央にあり利用者からまたは職員からの見通しが良く、食事作りの様子が見えたり、利用者の様子もキッチンから窺うこともできる。食堂の壁には行事の際の写真を掲示している。季節の行事には飾り付けを行い、雰囲気を楽しんでいる。	ホールは床暖房設備があり、利用者は、普段は大きなテーブルが配置されたりリビングに集まり、くつろいでいる。ホールの一部が6畳程度の畳敷きになっており、利用者が休んだり、職員が夜勤の際に待機する場所にもなっている。壁面には、季節ごとの飾りつけをしたり、行事の際の写真を展示するなどして、雰囲気づくりの工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではテレビを観ながら若い頃の話をしたり、リビングでは歌が好きな利用者が録画した歌番組を観たり、思い思いに自分が過ごしたい場所で日々を過ごされている。畳の部屋もあり使用頻度が少ないが横になって休んでいる利用者もいた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込む事を勧めている。家族との思い出の写真を飾ったり、自宅に咲いている花を面会の都度持参し、花瓶に飾って行って下さるご家族もいらっしゃる。	居室内には、木製ベッド、洗面ユニット、クローゼット、FF暖房機が備え付けられている。TVの持ち込みは可能であるが、現在持ち込んでいる利用者はいない。居室には、趣味の品物、家族や旅行の際の写真などを飾り、想いを大事にする環境づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリーの構造。トイレ4か所のうち、車椅子用、男子用を含む。見通し良く目が行き届きやすいが、必ず職員一人は利用者が見渡せるようにしている。		